

令和3年11月29日

令和3年度第3回岸和田市産業活性化推進委員会 会議録

日 時 令和3年11月29日（金） 15:00～17:00

場 所 岸和田市役所 新館4階 第1委員会室

出席者 (委員)

石田信博委員長 藤田副委員長 音掬委員 岸田委員 小南委員
谷口委員 佃委員 中井委員 永谷委員 松下委員 南委員

(欠席)

石田茂委員 山中委員

(事務局)

前田魅力創造部長 上東産業政策課長 田中商工振興担当長 公文企業
経営支援担当主幹 高橋観光振興担当長 栗本農林水産振興担当主幹
中島港湾振興担当長 岸田労働政策担当主幹

1 開会

(事務局) こんにちは。定刻となりましたのでただいまから令和3年度第3回岸和田市産業活性化推進委員会を開催します。委員の皆様には何かとお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。司会進行を務めさせていただく岸和田市魅力創造部産業政策課の上東です。早速ですが開会にあたり、岸和田市魅力創造部長の前田よりご挨拶を申し上げます。

(事務局) 本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。先日の委員会では岸和田市産業振興ビジョンと産業振興新戦略プランの骨子案についてご意見をいただきありがとうございます。本日は事務局でご意見を踏まえて検討した新しい産業振興計画の素案をお示ししますのでご議論いただきますようお願いいたします。新しい計画案を、様々な観点からご議論いただきたいと思いますので最後までよろしく願いいたします。

(事務局) それでは本日の委員の皆様の出席状況を申し上げます。本日は2名欠席で

す。13名の委員のうち11名が出席のため、岸和田市産業活性化推進委員会規則の規定に基づいて、過半数のご出席をいただき本委員会は成立していることを報告させていただきます。本日配布の資料の確認をさせていただきます。《資料確認》次に2点お願いがございます。携帯電話の電源はオフにするかマナーモードに設定してください。次にご発言の際にはマイクを使っていただくようお願いいたします。最後に前回のポイントだけを確認させていただきます。前回は3点ご審議いただきました。1点目は現産業振興ビジョン及び新戦略プランの進行管理ということで評価についてご議論いただき委員の皆様からご意見をいただきました。2点目が今回の新たな産業振興計画の策定にあたり、市内事業者の皆様アンケート調査を実施した内容についてご報告を差し上げました。3点目が新しいビジョンとプランの骨子案について提示させていただき、ご意見をいただきました。前回までの内容は以上です。今後の進行については委員会規定に基づいて委員長にお願いしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

2 議事

(1) 岸和田市産業振興新戦略プラン【改定版】の評価の確認について

(委員長) 前回は引き続き、本日も大きく二つの議事がありますが、議事の進行にご協力をいただくようよろしくお願い申し上げます。早速次第に沿って進めたいと思います。まず議事の(1) 産業振興新戦略プラン【改定版】の評価の確認についてです。すでに前回委員会で皆様からご意見を頂戴しております。その結果について事務局からご報告をお願いします。

(事務局) 《事務局から資料1について説明》

(委員長) ありがとうございます。説明の通りで、変わったところは5-1のコメントの内容を入れていただきました。11-2に大阪産業技術研究所とのマッチングについて、技術相談という文言を入れていただきました。今の説明について質問やご意見はございますか。それでは特にご意見はないので、岸和田市産業振興新戦略プラン【改定版】の評価についてはこの内容で確定といたします。

(2) 岸和田市産業振興基本計画<素案>について

(委員長) 議事の(2)に入ります。まずは事務局から説明をお願いします。

(事務局) <<資料2について説明>>

(委員長) 事務局から追加はございませんか。

(事務局) 一点だけ失礼します。前回までは産業振興ビジョンと産業振興新戦略プランという名前で策定しているのですが、今回より、名称を産業振興基本計画として一本化しております。冒頭で伝えるのが漏れており失礼いたしました。内容は説明の通りですが、詳細は基本計画の本編の方から関心のあるところを見ていただければと思います。前回の時にもお話ししましたが、網羅的に産業全般を書くということではなく、10年の理念を持ちながら直近5年の短期の状況を、焦点を絞って取りまとめたいと考えました。大きなポイントとしては、市内の産業用地を新規に造成しながら先端イノベーション企業を誘致していくことが一つと、既存の産業をDX等も含めて振興させるのが2点目、労働の環境、人材確保が3つ目で、この3点に絞ってさせていただいています。この3つを一言で、「力強く未来へ導く産業変革都市」という名前で、理念で謳わせていただいています。以上です。

(委員長) ありがとうございます。今のご説明を受けてご質問やご意見がありましたらご自由にご発言ください。

(委員) 基本理念は賛成です。中に書いてある具体的な方向性も、もちろん反対の予定はありません。要はいかにして実行していくかです。以前もいろいろやってきて、なかなかうまくいかなかった。それをどういう具合で乗り越えていけるかです。新しく作る以上は、具体的な方法、人材育成にしてもどのようにして育てていくのか。専門学校を誘致するという方法もあるでしょう。色々な方法を考えるなどされると思うのですが、もっと具体的にどうやっていくのか。始まったばかりで難しいと思いますがもう少し具体的にされた方がいいです。例えば第一次産業の6次産業化の推進と、書くのは簡単ですがどうやっていくのですか。あまり失敗しては具合が悪いですが、失敗しながらでも具体的にやれることを書いていきませんか、型はめ感しかないという計画ですから、もう少し具体的な提案をお願いしたいです。以上です。

(事務局) ありがとうございます。おっしゃる通りだと思います。我々としてはなるべく詳細に記載ができればそれに越したことはないのですが、まずは本編に主な事業という各項で具体的にいくつかの事業名を挙げております。逆にここに書く

ことで具体例としています。実施に当たっては委員の皆様や各団体の皆様と相談しながら、ここに書いていることを実現するためにはどのようなことが必要なかを考えながら実施していきたいと思っていますところでございます。以上です。

(委員) 私も農協なので、分野としては一分野です。まずは現状というところで社会潮流や産業そのものの趨勢の読み方がこの程度でいいのかなと思います。日本の経済そのものはまだ拡大するのか、そのとらえ方の中で基本計画までおろしてくると、書いておられた5年の中で、少し選択をしているように聞きましたが、私からすると5年で何をどう進捗させていくのかが全く見えません。基本計画を策定するとなると、それに基づく行政としてのいろいろな支援、新しい産業となるとそれに基づく、創業するための整備すべきものが想像以上に多いと思います。工場が来るにしても道路や電力だけでなくネット環境も含めて市として5年でどこまで整備ができるのか、財政支援も含めてそんなことがないと、全く進まないと思います。社会そのものの潮流趨勢の読み方が甘いのではないのでしょうか。それについての取り組みの計画も、怒られると思いますがどこの市町村にもっていても通用するメニューが全て入っています。ここから岸和田市の現状に合わせて選択していくことが大事だと思います。個別というより全体をお聞きした上で感じた部分をお話させていただきました。

(事務局) 分析が弱いという点は、先を見据えてすべからず細かい点まで見られているか、我々も自信を持って言えるかという点、ないのが正直なところだと思います。私の方でポイントを絞ってと申し上げたのは、現計画との比較の中でというようにご理解いただければと思います。今のビジョンとプランを見ると本当に漏れなく記載されていると思います。今回は基本目標で言うと3つだけ、先端産業を入れながら既存産業の振興を図る、3つに絞っています。先端産業を入れると言っても本編に記載しているように、産業団地をこれから作っていく、そこに新規企業を誘致することを念頭に置いてございます。木材コンビナートの貯木場の利活用を念頭に置きながら一つのポイントに置いています。既存産業の振興については事業承継をはじめ、特に問題になっているDXやデジタル化、IT化を必ず推し進めていくことに焦点化しているというように、我々としては考えて作らせていただいております。

(委員) 水産関係です。大阪のしらすはこの岸和田に来ています。岸和田に集中しているということは売り上げが岸和田のマーケットに入っていると思います。今のところ、この数年つまりコロナになる前までは、値段が1.5倍になっています。コロナになり、売れなくなって低迷しています。今せつかく岸和田にしらす

集約していますが、それを買いに来るのは和歌山や兵庫県です。大阪、岸和田でやっているところは1件で、その他2件か3件しかありません。捕れた所、岸和田で加工場を作って色々前に進めていきたいと計画を立てていますが、それに対して排水、下水処理が整っていない状況です。一つの工場を作るにあたり、下水処理などいろいろなことを整備していただいて、その中で確かに雇用が生まれてきます。先端技術は入れていかないといけないけれど、それに対してもすごくお金がかかってきます。農林水産関係は補助が1/2も出ないような状況なので経済産業省のいろいろな形で予算を落としてもらい、そこに岸和田市ももっと力を入れてほしいです。大阪府下のしらすはすべてここにきている良い時に岸和田市が何もしないのはおかしいと思っております。

(事務局) おっしゃっている案件は十分承知しております。個別にご相談させていただきながら検討したいと思います。

(委員) 昨日、ITフェアと銘打ってやってみたのですが、実際にやってみてわかったのは、岸和田の企業はほとんどないのです。堺や他から引っ張ってこないとうりにもできないのが現状です。現場に即している者はものすごく危機感があります。これ自身、悪くないのです。反対はしません。ただその前にもっと活かすべき小さな案件がたくさんあって、その小さな案件を進めることによって大きな波になると思います。それを集めていかない限り、大きな絵だけでは物足りません。5年間ではとてもできないことになります。ハコモノ行政でいろんなことが起こりましたが、そうではなく細かい案件を少しずつ前に進めることによっていろんなことが前に進むと思うし、基本目標は悪くはないけれど、できるのかというところで、お二人の発言通り、我々は現場を抱えていますから、何が起きているかよくわかっております。それを役所の方も共有していただきたいと思います。

(委員) 一市民として、この場で何ができるかを思った時に漁業では府下で漁獲高がナンバーワン、農業では愛彩ランドで待たなければならないくらい安くて新しくおいしいものを消費者が求めています。これは立地条件がいいのもあるし、それぞれいいものをめざしてがんばられているのもあって、そういう意味では魅力的な街です。それとだんじりの関係もあり、自分の校区を大事にしようということもあり、やり方によっては住みよい場所になると思います。その時にしらすもそうですが野菜も大変豊作になっています。学校給食は愛彩ランドの横にある中学の給食センターも地場のものを入れていません。小学校のところもしらすのことは頭にないと思います。もっと機敏に、足元のところで産業を興してもらおうのが大事だと思います。そういうところをマッチングするのが行

政であり、そういうところを強化していくのを、一消費者としては思います。できるだけ地場のものを子ども達に食べさせてほしいという観点からも、産業の在り方は影響があると思っていますので、よろしくをお願いします。

(委員) この後は具体的な素案の計画の中身の説明に入るのでしょうか。個別、全体といろいろな質問をされているかと思います。個別のところはまた質問させていただきます。まず全体的には、この計画は10年計画となっていますが10年後の世界の中はどんな状態になっているのか、それに対して岸和田市はどの辺のポジションをめざすのでしょうか。10年先から見てこういう姿、目標にもっていこうと。そこが、産業変革都市という思いの中に入っていると思います。かなりジャンプをして、考え方から飛躍しないとだめですという前提で基本計画を作られているかと思います。そういう目で見ると目標、指標はどのあたりを目指しているのかが見えません。前期計画は5年ですから中間評価が、今のままでいいのか、5年で達成できなければ基本計画をやめよう、作り直そうという覚悟でやらないとなかなか実現には遠いような気がします。それでいうとまだまだ計画は書けていない気がします。実際に何をやるのか、皆さんの質問はそこに来ています。それに対して考えながらやっていきますでは、どのようにやっていくのか、会議を進行していくのか、PDCAサイクルを回すことになっているが、その評価シートがもう少し具体的に進むようにしていかないと目標が達成できないと思います。産業変革都市への思いを聞かせてほしいです。かなりチャレンジングな方針だと思います。

(委員長) ありがとうございます。事務局からどうでしょうか。

(事務局) ありがとうございます。どれもおっしゃる通りだと理解しております。基本計画を作る時により具体的に詳細に施策名もあげながらご理解いただきやすいように書くというのはベストだと思います。一方であくまでも基本計画ですので大きな方向性とその中でも特にどのあたりに焦点を入れるのかを醸し出す雰囲気のものであると私は考えております。最後に委員からおっしゃっていただいたように、産業変革都市という言葉は私自身も実は非常に重たい言葉だと思っております。私自身は結構思い切った計画だと考えております。基本目標の一点目に次世代を導く新産業を作るということを謳っております。それで既存産業の育成発展が大事だという意見もあると思いますが、あえてそこを一点目に企業誘致をするのだとしています。その肝は何かというと、木材貯木場地区の新産業用地、大阪ベイエリアの発展も含めて大阪府全体、ひいては日本全体の産業を振興するような地区にしていく思い、イメージをもって基本方針の1-2にあるように新たな産業拠点の創出を明確に謳わせていただいたことがミソ

になるかと思えます。その他事業として伴走型の支援も含め、企業経営の活動を、企業の体制支援を総合的に寄り添いながらしていくのだということの一つの肝として上げさせていただいております。ここは読み取っていただくところかなと思っております。PDCAももちろん回しながら、施策確認シートのようなものを用いて新計画に基づいて具体的に記載し、皆様に成果や達成度をお聞きしながらやっていかなければなりません。具体的な個別の事業につきましては基本計画を見ながら、また、その都度皆様と位置づけや優先順位を考えながら、個別に相談させていただいて進めたいと思っております。最後に、本日の会議はこの概要版にて議論いただき、素案の本編についてはこの後も説明する予定はございませんので、個別の中身についてもご意見がありましたらおっしゃっていただければと思います。

(事務局) 委員のコメントに対して私からも補足させていただきます。この基本計画の中で私の方で考えていたのは、既存の企業も含めて、木材コンビナートの貯木場を埋め立てた結果の新しい企業を誘致しての競争力の強化でございます。競争力の強化を具体的にどう進めていくのかでITやデジタル化を進めながら、農業、漁業、製造業の皆様、既存企業の皆様全てに競争力の強化を進めてもらい、ひいては岸和田市の人口の増加や岸和田市の域内のGDPの向上に貢献していきたいです。細かな戦略が不十分だご指摘をいただいておりますが、この辺は貯木場を管轄する大阪府との関係や、岸和田市も行政として産業だけではなく予算的な面もありますので、詳細まで踏み込まず看板を掲げただけというお叱りもあるかと思えますが、これでも我々としては十分踏み込んだつもりです。思いとしては競争力の強化でございます。以上です。

(委員) 先ほどから市役所の方もおっしゃるように、細かいことは議論の中で書ききれないこともたくさんあり、いろいろな計画があることはよく承知の状況ですが、民間の企業で言うと事業計画書に相当するもので、市で言うと基本計画という形になるかと思えます。各論でどうこう、というのは先ほどから言われている通り、進んでいく中でだめだったら刷新していく覚悟があるのかということをおっしゃっていましたがその通りで、計画したものがそのままの状態ですぐ遂行することは民間ではないです。うちの会社でも事業計画を立て、まずいところがあれば改善し、なぜすぐ改善しないのかという話になります。そこで見て大きな問題に感じるの目標というところですが、目標は、期限と状態、状態というのは数値目標ですが、これが明確になって初めて目標と言われると思います。目標は当然基本理念が大事で、どの程度飛躍しようとしているのかと先ほど聞かれたようにとても大事なことで根幹にかかってきます。そこをどういう風の実現するのが必要なのか、そこをわざわざ目標1、2、3と置いています。そ

ここで書いているのが「促す」「推進する」「進める」なのです。これをどう判断するかということです。中の各論が間違っていた時に修正するためにどこにおおもとに戻っていくのか、どの数値をどれほど改善するのか、ここが肝になります。地域経済循環率をどの状態からどう変えるだとか、工業・商業をどう変える、とか、産業変革都市とはどういうチャレンジングな感じかと言われていたのかは、ここの数値がドラスチックに出てくれればどこまで本気度を持ってやっていくのかが変わります。名前はドラスチックだが中身を見ればそれほどでもないのか、本当にドラスチックに変えるのか、そこは簡単なワンシートでも、何を外してはダメかという、基本の理念と目標です。各論は置いても目標に数値を入れなければ何もありません。数値が入っていないから魂が入らないのかと思いますが、どうでしょうか。

(委員長) どうでしょうか。具体的な数値をどう取り入れるかということです。

(事務局) 的確なご指摘をありがとうございます。基本目標については確かに一番根っこの部分ですので、抽象的になってしまっております。最終的には目標1つずつに1つの数値ということではないと思いますが、ぶら下がってくる各施策、事業を確認シートなどでお示ししながら今でも点検いただいているようにどうなったのか数値も示しております。そこで点検いただくのかと思っております。ただそれは個別事業の数値であり、本来の大きな目標とは何なのかを示し、期限も示さないといけないということだと思います。今後、個別シートを作りますが、作り方を工夫したいと思っておりますのでここは宿題とさせていただきます。

(委員) おそらく各論の基本方針は、企業で言うアクションプランというところになると思います。その点検シートのお話がありましたが、そちらにとらわれすぎて点検シートの方でチェックをやっていくから大丈夫だろうと思っていると、目的と手段の混同が起きます。手段のアクションプランの点検ばかりやって、元の目的はそもそも何かというところぼかしたところになってくるので、やはり目標のところインデックスを置かないと、そこが一番かなと個人的には思っております。

(事務局) 資料3、本編45ページをご覧ください。第5章の計画推進の方策というところですが、今回はまだ用意ができておらず、イメージです。基本目標ごとに指標を作り、それに対してどれだけ達成できているかをこのような形で作っていかうと考えております。基本的には現在のものを踏襲しながら、と思っておりますが、目標を書き込んでいき達成率が数字でわかるような形でお示しできればと思っております。

(副委員長) 今の点についてお伺いします。従来の評価シートはトータルの目標値があり、それに対して達成度というのが基本的な評価指標だったと思います。最近の国の方から降りてくる計画の立て方で言うと、毎年どこまでやるかの年次計画の立て方をさせられます。今回の計画の立て方はそういう計画の立て方にしていかないと、5か年でという部分の達成はどの程度何ができるかという点で試されてきます。なるべく年次計画に割り振って達成度の進捗を見ていかないと厳しい状況になります。ここでどれくらいを目指すかという計画の立て方が重要になるかと思いますが、いかがですか。

(事務局) 先ほどの本編の45ページのイメージ図を見ていただくと、基本目標の下に指標があります。そこに評価可能な数字を入れ、毎年その状況を見ていく形で作っていきたいと思っております。それがいわゆるK P Iになり、進捗管理していければと思っております。

(副委員長) 例えば最終目標値が60人という時に毎年度ごとに15人ずつ増やしていくという目標の立て方に記載していくのか、最終年度60人の部分に対して何%達成しましたという評価の仕方なのか、そこがある意味本気度が問われる部分だと思います。どちらのやり方をするのかしっかり考えていただいた方が良いかと思えます。

(事務局) 十分理解できました。45ページの方でもシートはこれから考えますと申し上げましたがこれは案であるので詰められていません。45ページのものも目標と書いてはいますが、5年のものなので、令和8年の目標値だけを示すのか、それに至るまでの数値を決めてそれぞれ入れていくのか、おそらくよりきめ細かく責任をもって本気度を出してやるというのは年度ごとにしっかり決めていくということだと思いますが、検討させてください。2年目に本計画が始まって評価をいただくことになります。貴重なご意見として、それまでに十分検討させていただきます。

(委員) 他の方が言われているように、なかなか数字が出てこないで我々も見るとどこをどうしていくかわかりにくいところはあります。現状はこういうものとお話することになります。計画を立てるとなると、工業で言うとガントチャートを作り積み上げのようにするのです。積み上げを一度作ると、5年で木材団地を埋め立てられているかというやはり5年では無理です。そこに対する工場誘致というのは5年以内には不可能な案のはずです。あその計画自体が何年間に誘致できるような、更地になっているあるいは建物が建っ

ているということと言うと、目標というのは長期的な目標になります。それに対して5年計画という短期計画に近い中期計画なので、やれることは目の前のことをこなすとそこで価値を生むかどうかなので、時間軸が基本目標1の中で同居しているような気がします。5年間で埋め立てて建物が建っているかというは無理です。木材港地区は我々の中で課題になっていますが、あの解決を図ると企業は増やせるので府にとってもありがたく、やらないといけないところですが、そのあたりを考える必要があります。計画に落とし込んだ時に狙っているターゲットはまさにそこなのだと思いますが、5年10年でどこまで行っているのかは見直した方がいい気がします。ガントチャートを書くと5年では難しいかと思います。もう一つは自治体政策になるのですが、内発型か外発型かという議論があります。貝塚は外発型で誘致を一生懸命やっています。誘致した結果工場が大きくなっていくパターンです。岸和田は鉄工団地が、昔は大阪市内の工場関係で公害が出てくるところを誘致したので外発型だったのですが、今は岸和田の産業になっています。地蔵浜も似たような状況で、ある段階で地域の内発型に置き換わっています。内発型産業で岸和田の一番強いところはどこか、私なりに分析すると金属型で出荷が一番多いです。当時に集積させた理由があるので大きくなっており、最終部品を作っているのではなくて川中なのです。川上ではなく、鉄を二次加工して最終製品になる一歩手前のものを作っています。クボタさんや北海さんもそうです。二次加工屋が多く、中流なのです。中流を育て、強みを強めたいかと思います。今回の基本方針1で議論しなければいけないのは、埋め立てれば誘致ができる外発型であるパターンがここに 있습니다。次の基本方針2にある、イノベーションという内発と外発の度合いを数字か何かで示していくと分かりやすいのかと思います。こういう工場を誘致すれば売り上げが例えば100億円上がり、従業員が300人来ますという外発型のパターンと、中の企業のそれぞれの方のイノベーションを図るパターンです。経営革新を図り、雇用を一人ずつ増やし500人達成すると、内発型と外発型で比べた時に雇用数と売上高は同じだが、手法は違うわけです。そのやり方を考えた方がいいです。工場を誘致するのは大阪府もやっているのですが、ニーズはあります。しかし景気に左右されることと、府内企業の府内移転があるので、そうすると市同士ではそれぞれ取り合うのですが府としては中が出ていくだけで跡地はどうなるのだという問題が出てきます。議論が広がって申し訳ないですが、そのあたりをケアしておかないと。市で考えないといけないのは、昔の政策で内地型の工場が、公害があるから浜に作るというものです。貝塚の二色の浜工業団地は内発の企業を工場に固め、空いたところに商業や住宅を置き、工と商と住まいを分離する政策です。こういう形で今度のコンビナートを使うと、内地企業が移転することになり、歯抜けが起こります。東大

阪市では小さな工場がまとまって抜けると、小さなところが歯抜けになるのです。そうなるとう開発がしにくいです。そのあたりも含めて考えると、内発型と外発型を視野において、思いは木材コンビナートをどうにかすれば、企業誘致すれば出荷額も伸びれば雇用も増えるというのもわかります。そこに新産業、デジタル的なものの分野の企業も作ればいいと、チャンスはあるのですが、ガントチャートとして5年の計画でどこまでできるかというのは疑問です。長期的なところでねらいはわかりますが、5年10年計画であてはめるとどこまで当て込めるかがわかりにくいので検証する必要があると思います。私としては府内の製造出荷額を上げて、市内で5年以内に何兆円上げると。その手段として内発型の今ある企業の経営革新を図る手法と外発型の誘致を図る手法で10年先に1社入ると、そういうことをすると計画としては具体的になるかと思ひます。

(委員) 誤解のないようにお願いしたいのですが、漁業にしても、農業にしても天候で変わるので、今年これだけとれたから来年同じようにとれるかという計画はできません。先ほど先生のおっしゃった、外からやってきて中になってというのは結果論なのです。金属団地の中でいろいろな競争が起こり、生き残ったところがそういう形になったのです。何もかも計画通りに行くというのは、実際にビジネスをやっているものにとってはほぼ不可能です。絶えず変えていかなければなりません。PDCAもその一形態ですが、実際PDCAをどれくらいやられましたか。私はずいぶん苦しめられました。意味があるかと言えば、分析的なところは確かにありますが、結果を書いてあるだけなのです。原因はわからないのです。経営計画は否定しません。例えば今回のコロナ禍で何が起こったか、お分かりになりますか。私のところは一番影響を受ける業界だと思います。2年経って、何が起こったかやっとうわかりました。変化するのです。書いただけできちつと行くなら、計画を立てる人が一番強いはずですが、そんなことは起こりません。市場が変化するからです。その変化にどのようについていくかです。この議論を否定する気はありませんが、頭の中で考えたことで実際に何が起きているかをちゃんとつかみ切れていません。漁業組合長が岸和田の祭りについてずいぶん怒っておられました。岸和田の祭りは、人口が減って「だんじり」を引っ張る人間も減っている現状があるにも関わらず、岸和田の特徴は「だんじり」と書かれるのでは、現場をわかっていません。言葉の概念だけで踊らないように。理想はわかるし計画もわかるが、現実と乖離しないように。現場に立ち入ってよく話を聞いた方がいいです。頭の中だけで展開しても物事はうまくいきません。そういうことです。

(委員長) 今のことにご意見はございますか。

(事務局) 皆様から非常に奥の深いご意見をいただき、大事な論点を列挙していただいたということに感謝をしております。皆様それぞれご意見もあり、思いはお持ちかと思いますが、1点だけ、コンビナートの話については、できるのは確かに20年後以降です。だからこの計画の対象外だから書かない、という選択はしていません。できるのは20年後だが、そこに向けて今できることをしっかり書いていきたい、5年間で何をやるのかをもう少し具体的に別のところでお示ししなければならないだろうと思います。コンビナートのビジョンはつい最近市のホームページでも公開しています。先ほど委員は大阪府の立場でおっしゃっていただいたと思いますが、内向外向という意味では外向です。岸和田のためにやろうと申し上げているのではなく、大阪府の産業のために、府内移転が多いとおっしゃっていましたが実際には府外に出ていく方がもっと多い状態です。その状態を府としても課題としてとらえて大阪府の産業振興のために必要であると考えます。2025年に万博がありますが、その次に何があるのかをお示ししていくようなそれくらいの事業としたいと考えて取り組んでいます。それを5年間で誘致までは行きませんが、最初の5年でやるべきことは何なのかをお示ししながら明記し、数値も示しながら進めさせていただければと思います。

(事務局) 委員のコメント、ありがとうございます。まさにおっしゃる通りだと思いました。目標は大事ですが何よりその都度企業経営者の意見を聞いて、絶えず世の中の動きについていき、企業の支援を図りサポートするのが非常に大事なことだと理解いたしました。ありがとうございます。また、大阪府の外発型内発型の議論もありがとうございます。私は堺泉北の論文を見たことがあり、伝統的な産業とコンビナートも堺に誘致されてしまい、非常にもったいないということが書かれた論文でした。なるべく岸和田の強みを、川中の産業がもっと強くなるような企業誘致を図ればと思っています。相手もある話ですので、そういうところに着目しながら進めればと思っています。

(委員) 確かにこういう産業に関わっておらず、本当に一市民としてこの場に来させていただいています。この基本計画を見た時に、概要版という形で出るのだと思います。一市民としては基本目標や基本計画を見たいと思います。先ほど、「促す」「推進する」「進める」というのがあまりにも漠然としていて、岸和田市としてははっきり目標とすると明記されれば、岸和田市もこの形をとっていくのだととらえることができます。もう少し具体的に分かりやすく書いていただければ一市民としては納得ができます。分厚い冊子まで見るということはなかなかできませんので、岸和田市はこのようにしていくのだということがわかるようにしていただければ嬉しいと思います。

(委員長) 私の方から一つ、基本理念ですが、これが普通の人が見れば一番先に目につくところだと思います。「力強く未来へ導く産業変革都市」というのは分かりにくくないですか。私は経済のことをやっておりますので、産業変革というのは、一つは産業の中の状態が変わる、変容なのか、あるいは産業構造そのものが変わるのかいろんな意味にとれます。岸和田市ならではのものにとという意見もいくつか出ていましたが、理念だからこれでいいと言えればいいのですが、レストランに入ってメニューを見てもおいしそうに書いてあればそれを選ぶのですから、看板ですからもう少し一ひねりしていただければと思います。まだこれからの話だとは思いますが、普通の人が見て理解をできるような、キャッチコピーのようなものですからよろしく願います。いろいろご意見が出て、市の方で修正をしていただくということになるのですが、何かございませんか。

(委員) もう一方の視点から追加していただきたいと思うのは、岸和田市の中長期計画を立てておられますよね。総合計画も進行中ですか。基本計画はいろんな市の計画とリンクをしていますね。府とも連携して進める事業もあると思います。計画と時間軸、時間軸がないので他の計画とどのようなつながりがあり、今年は何をやるのか、一メンバーだけでやるのではなく、かなり連携してやらないと進まないと思います。そのあたりが見えるようにされてはどうかと思います。例えばゼロカーボンシティ宣言を岸和田市はされていますね。2030年に30%40%削減しますと書いてありますが、言っているだけで具体的にやっていくアクションプランはこの計画だけではないと思いますが、一部関連していると思います。その辺の落とし込みはどこからきて、担当が誰でどのように線を引きのかわかるようにすればもう少し理解をされるかと思います。

(事務局) 個別の産業振興、この計画よりも上位の計画や、あるいはこの計画からさらに個別の実施計画やアクションプランとは、もちろん連動していかないといけないと思います。それぞれのポジションで書くレベルは変わってくると思います。先ほどの環境の話ですと環境基本計画もあります。廃棄物の関係もあります。それぞれにまたつながっております。産業の方はこういったくくりで書かせていただき、これから作る計画については本計画を参考に作っていただく必要があると思います。何度か出ていた個別目標や数値目標は実際の施策の具体化が示されていく中で設定されていくと理解しております。ご意見として確かに賜りました。ありがとうございます。

(委員長) ありがとうございます。素案について本日のご意見、ご提案を盛り込んだうえで修正していただくことでよろしいでしょうか。

それでは今後の予定について説明をお願いします。

(事務局) 今後の予定は、今いただいた意見をもとに修正させていただき、内部手続きを経て翌年1月から2月の間にパブリックコメントを実施したいと考えております。そこでさらにご意見をいただいて修正を経たうえで、3月の本委員会で提示をし、最終決定をしたいと思っております。以上です。

(委員長) パブリックコメントの意見をもとに修正をするということですが、委員会に直接出てくるのですか、それともその前に目を通す機会がありますか。

(事務局) パブリックコメントについては事務局の方で回答をさせていただき、修正を加える形を考えております。3月3日に最終委員会を考えておりますので、その時に最終版をお示しするように考えております。

(委員長) では事前に早めに目を通すことができれば、この委員会で意見を出しやすいかと思っております。もし可能でしたら修正した素案を前もって見せていただければありがたいと思っております。今の進め方についてよろしいでしょうか。

(3) その他

(委員長) 何か事務局の方からございますか。

(事務局) 特にはございませんが、今後本案について、今いただいた大変貴重なご意見を受け、我々の方で時間も限られておりますが、できるだけ反映をさせていただきます。庁内的にも審議をさせていただきます。そのうえでパブリックコメントを実施しますので、そこで意見が出た分については随時お示しをしながら、また修正をしたものは早めにご覧いただいたうえで進めさせていただきます。次回3月3日に委員会がございますのでその場でご審議いただければと思います。それまでにお気づきの点がありましたら委員の皆様には個別に事務局までいただければと思います。是非ともよろしく願いいたします。

3 閉会

(委員長) 以上で本日の日程は終了いたしました。ご協力をいただきありがとうございました。以上で岸和田市産業活性化推進委員会を終了いたします。

以上